

新政 議会報告 2023 秋



浦部在住



西の原在住



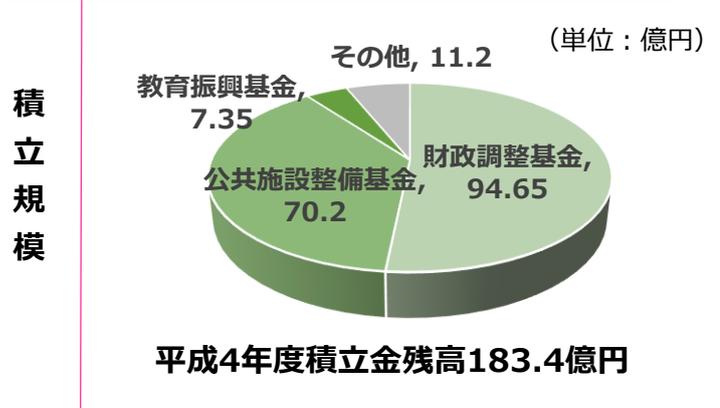
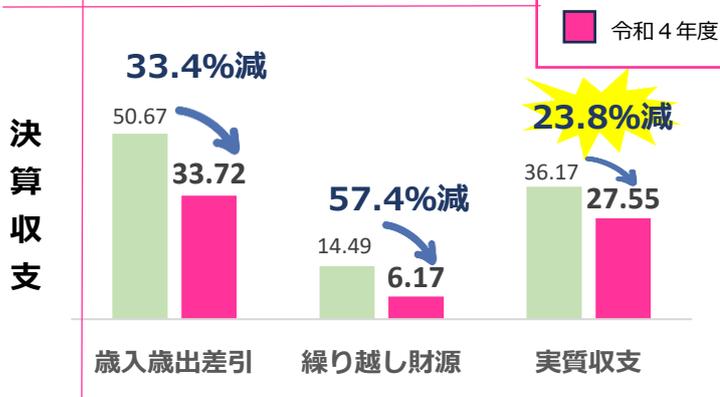
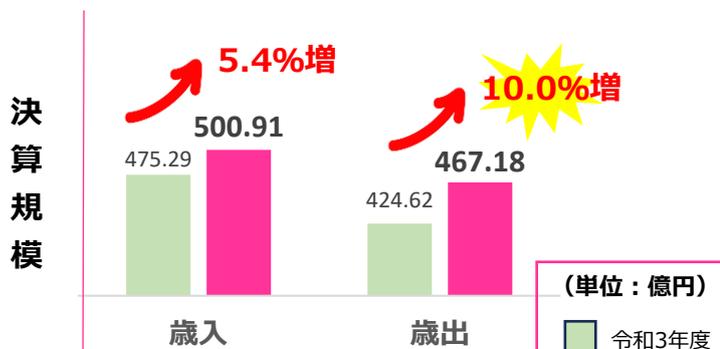
小倉台在住

印西市議会会派新政事務局
〒270-1334
印西市西の原2-3-6-104
Tel:0476-45-8362
✉toshigunji@hotmail.com

令和5年第3回定例会（9月議会）報告

令和5年第3回印西市議会定例会（9月定例会市議会）が9月29日（金）までの会期で、開催され、令和4年度の歳入歳出の決算認定を含む市長提案の議案全てを可決し、終了しました

令和4年度印西市決算（一般会計）の概要



Q 決算収支を見ると令和4年度の実質収支は27億5,565万1千円となっている。この収支についてはどのような評価を行っているのか。

A 令和4年度の実質収支比率は、令和3年度と比較いたしまして、5.0ポイント減の10.9%となっている。また、実質収支額では、令和3年度と比較して、8億6,180万8千円の減となった。実質収支額が27億5,565万1千円となった主な要因としては、歳入においては市税が伸びていること、歳出においては、不用額が大きくなっていることと考えている。なお、実質収支に対する評価としては、物価高騰による影響もあるが、収支均衡を保つという観点からは、財政運営の堅実性が図られたものとする。



Q 積立金残高を見ると183億3,922万6千円となっている。市ではどのように将来の財政負担等を考えているのか。

A 将来負担等の見通しとしては、公共施設等の老朽化に係る経費や、社会保障関係経費のほか、子育て世代の流入に伴います、児童生徒数増を見込んだ、教育関連経費等の増が考えられるところです。これらのことを踏まえ、財政負担の平準化、持続可能な財政運営を図るため、各基金の運用を図って参りたい。

「公共施設等総合管理計画」の資金計画では、毎年約33億程度の不足が生じるとされている。公共施設整備基金は設置されたが、インフラ資産（道路・橋梁など）の整備のための基金も設置すべきである。

一般質問の議会中継は以下のQRコードからご覧になれます。

板橋陸（8期）元議長
予算審査常任委員会委員・文教福祉常任委員会委員・議会運営委員会委員・消防組合議会副議長・議会だより編集委員会委員



軍司俊紀（6期）
予算審査常任委員会委員長
文教福祉常任委員会委員
議会運営委員会委員
環境整備事業組合議会議員



金丸和史（7期）元議長
建設経済常任委員会委員
千葉県後期高齢者医療広域連合議会議員
議会基本条例制定特別委員会 委員長



金丸和史議員が新たに設置された「議会基本条例制定特別委員会」委員長に就任しました。条例制定に向けて尽力していきます。

ふれあいセンターいんば改修及び複合化工事

Q これまでの経緯は？

A 平成15年度に竣工し、20年を経過したことから、印西市公共施設長寿命化計画に基づき、保全改修を実施する。併せて、印西市公共施設適正配置アクションプランに基づき、印旛公民館との複合化を検討した結果、この度の計画となった。

Q 複合化計画については？

A 印旛地域の行政の拠点であり、駐車場の確保を含め、交通の利便性が良いことから、より効率的かつ機能的な運用を行うことを目的として、印旛公民館と複合化することとした。

Q 本計画を策定するに当たり、印旛医科器械歴史資料館については議論があったのか？

A 印旛医科器械歴史資料館については、本計画に含まれない。

Q 印西市公共施設整備計画での、印旛日本医大駅圏の方針はどうなったのか。

A 「印西市公共施設整備基本方針」では、
①印旛医科器械歴史資料館の来館者の減少、施設の老朽化に伴い、移転などを含めた検討を進め、

施設の跡地の活用についても検討を行う。

②ふれあいセンターいんばについては、複合化工事を進めるとともに、必要に応じて施設整備の検討を行う。

Q 印旛日本医大駅圏の南側には商業施設があるが、北側には何も無い。これについてどう考えているか。

A 北側についても、市街地において住宅やマンション等が既に整備されており、用地の確保が難しい状況であると考えている。

Q 駅に近いところでは、印旛医科器械歴史資料館しかない。移転した場合の跡地の活用を考えた方が良いのではないか

A 「印西市公共施設整備基本方針」において、印旛医科器械歴史資料館が移転した場合には、跡地の活用について検討を行うこととしている。歴史関連施設の集約化を見極めながら検討していきたい。



日本デキシー跡地

Q 「にぎわいの広場事業」の完了後の方向性はあるのか。

A 日本デキシー跡地である木下駅南口公共用地については、現在、にぎわいの創出を目的とした公共的な広場として、「印西市木下駅前にぎわい広場」を整備し、9月1日から供用開始している。この広場の完了後の方向性としては、広場を活用していただき、その活用状況等をじっくり見ていくと共に、今後の活用について、市民の皆様の意見を伺いながら、検討していきたい

Q 広場は先行事業として聞いているが、いかがか。

A 木下駅南口公共用地については、市民に早期に活用してもらうため、にぎわいの創出を目的とした公共的な広場として整備した。

Q 広場で建築物を建てるとなった場合、建蔽率や容積率などからみてどのくらいの規模の建物が建てられる想定か。

A 木下駅南口公共用地の用途地域は、第一種住居地域であり、木下駅南口公共用地全体の約31,000㎡を敷地として設定した場合、建ぺい率は、敷地面積に対する割合の最高限度は60%、容積率は敷地面積に対する割合の最高限度は、200%となっている。

Q ハザードマップ上、浸水区域であることを理解した上で、計画していくのか。

A 当該場所については、ハザードマップで、1m以上3m未満の浸水想定区域となっているので、防災上の課題も含めて、今後の活用について、検討していきたい。

Q サウンディング調査※を実施すべきではないか。

A 有効な手段と認識している。今後の活用状況や市民の意見を聞きながら、対応を検討していきたい。

※サウンディング調査

市場性の有無や実現可能性の把握、民間事業者と意見交換等を通し、様々なアイデアや意見を収集する調査



JR木下駅周辺(木下・大森地区)には以下のような公共施設がある。これらの公共施設の再編の用地として活用を考えていくべきではないか。特に築44年で老朽化も進んでいる中央公民館の対策は急務である。

- 印西中学校（借地）
- 木下小学校、大森小学校、中央公民館（借地）
- 印西北部地域包括支援センター（賃貸）

带状疱疹ワクチン接種

Q 印西市独自の事業として公費化できないのか。

A 議員の意見等を参考にこれから印西市負担での公費化に向けて検討していきたい。



Q 印西市における带状疱疹患者の発症状況はどのような状況か。

A 千葉県国民健康保険団体連合会の令和4年度におけるデータで、社会保険加入者以外の40歳以上の方では493名の方が発症している。

Q このほかに社会保険加入者の市民の方も発症しているはずであり、発症状況から考えると、印西市が負担する公費化に踏み込むべきではないか。

A 市内医療機関におけるワクチンの任意接種状況や他の自治体の状況等を把握したうえで、さらに検討したい。

